

道徳科研究部報

令和元年 7月22日
浜松市教育研究会道徳科研究部

夏の日差しが降り注いでくるようになりました。

みなさまには、第1回の研修会に参加していただき、ありがとうございました。今回の道徳科部報では、第1回主任者会の様子を交えつつ、講話の内容の報告と第2回研修会の案内をさせていただきます。



第1回主任者会

気賀小学校 安藤 憲 顧問校長先生より

- ①中学校でも道徳科が完全実施。小学校の実践や評価から学んでいくとよい。
- ②市教研のありかたについて
 - (1) 参加しやすさを考え、道徳科は教科ではあるが、領域の日に実施する。
 - (2) 静教研への参加の仕方が変わったことをふまえ、市教研の内容をより充実させていく。
 - (3) 夏の研修会を参加しやすいように教科・領域ともに2日間の分散開催にする。
- ③道徳科研究部の組織について
 - ・ブロック長は、所属校の地区にとられない形に変更。
- ④推進教師としての活躍を期待する。

第1回研修会

1 研修計画

＜令和元年度浜松市教育研究会 研究テーマ＞
「愛情と情熱を持って学び続け、子供たちの道しるべになろう」

＜ 道徳科研究部の研究テーマ ＞
「夢や希望をもち、よりよく生きる子供を育む道徳教育」
～ 考え、議論する道徳科の授業を核に～

2 講話「考え、議論する道徳の授業の充実と評価」

浜松市教育委員会指導課 武田伸江指導主事

(1) 道徳科を要とした道徳教育

道徳教育、道徳科ともに、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを目標としている。道徳教育は、学校の教育活動全体を通して行われるが、道徳科がその要となるよう計画的、発展的な指導を行うことが大切。

(2) 道徳科の目標と授業

道徳性を養うための手段となる主体的・対話的で深い学びとは、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習」である。（深い学びの鍵となる「見方・考え方」は、これと同じと見ることができる。）

- ・主体的な学び：問題意識をもつ、自分との関わりで捉えて考える、自らを振り返る
- ・対話的な学び：多面的・多角的に考える
- ・深い学び：自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

☆「国語科」と「道徳科」の違い

- ・国語科：言葉に着目して、登場人物の心情を読み取る
- ・道徳科：自分事として受け止める→自分自身の納得解を見付けていく

(3) 道徳科の評価

道徳科は、道徳性を養うことがねらいであるが、それが養われたか否かは、容易に判断できるものではないため、学習状況や成長の様子を評価することになる。評価とは、成長を認めること。

☆人の心は、目にみえないからこそ、言葉に出したり文字に表したりして、人と比べたり、ぶつけ合わせたりすることが必要。道徳科の時間を、ぜひそんな時間にしていきましょう。



第2回研修会について

日時 8月7日（水） 9：00～
場所 浜松市教育センター、浜松市教育会館

日程 9：00 開会

指導案作成演習

- <教材>小1年：「きいろいベンチ」（C）、「ねずみくんのきもち」（B）
2年：「金のおの」（A）、「大なわ大会」（C）
3年：「よわむし太郎」（A）、「新聞係」（C）
4年：「絵はがきと切手」（B）、「世界の子どもたちのために」（C）
5年：「わたしにできることを」（C）
6年：「米百俵」（C）
中1年：「銀色のシャープペンシル」（D）
2年：「茂の悩み」（B）
3年：「うるわしき伝統」（B）、「明かりの下の燭台＝鈴木恵美子」（C）

11：45 昼食・休憩

13：05 講話

講師 藤永 啓吾 先生（山口大学教育学部附属光中学校教諭）

演題 「明日、道徳してみたいな♪」

16：30 閉会 （時刻は若干変更になる場合があります）

その他

- ① 駐車場 … 乗り合いか、公共交通機関等でお越しいただくと助かります。
- ② 弁当注文… この部報と一緒に送信した調査票に必要な有無を記入してください。
- ③ 持ち物 … 学習指導要領・教科書等